

摂津市議会

駅前等再開発特別委員会記録

平成28年11月18日

摂津市議会

目 次

駅前等再開発特別委員会

11月18日

会議日時、場所、出席委員、説明のため出席した者、出席した議会事務局 職員、審査案件-----	1
開会の宣告-----	2
市長挨拶	
委員会記録署名委員の指名-----	2
認定第1号所管分の審査-----	2
補足説明（市民生活部長、保健福祉部理事、建設部長）	
質疑（市来賢太郎委員、南野直司委員、三好義治委員、森西正委員）	
採決-----	30
閉会の宣告-----	30

駅前等再開発特別委員会記録

1. 会議日時

平成28年11月18日（金）午前9時58分 開会
午後1時23分 閉会

1. 場所

第二委員会室

1. 出席委員

委員長 上村高義 副委員長 森西 正 委員 三好義治
委員 弘 豊 委員 南野直司 委員 市来賢太郎

1. 欠席委員

委員 木村勝彦

1. 説明のため出席した者

市長 森山一正 副市長 奥村良夫
市民生活部長 登阪 弘 同部次長 山田雅也
同部参事兼産業振興課長 池上 彰
保健福祉部理事 平井貴志 保健福祉課長 丹羽和人 同課参事 川口敦子
建設部長 山口 繁 同部次長 土井正治 都市計画課長 西川 聡
同課参事 小寺健二郎

1. 出席した議会事務局職員

事務局参事兼局次長 橋本英樹 同局書記 坂本敦志

1. 審査案件

認定第1号 平成27年度摂津市一般会計歳入歳出決算認定の件所管分

(午前9時58分 開会)

○上村高義委員長 ただいまから、駅前等再開発特別委員会を開会します。

理事者から挨拶を受けます。

森山市長。

○森山市長 おはようございます。

連日の委員会に引き続き、本日も忙しいところ、駅前等再開発特別委員会をお持ちいただきまして大変ありがとうございます。

まず最初に、役員改選で、両正副委員長さんにご就任おめでとうございます。

1年間、またいろいろとお世話をかけますが、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、平成27年度の決算についてご審査をいただきますけれども、何とぞ慎重審査の上、ご認定いただきますようよろしくお願い申し上げます。

一旦、退席させていただきます。

○上村高義委員長 挨拶が終わりました。

本日の委員会記録署名委員は、三好委員を指名します。

暫時休憩します。

(午前10時 休憩)

(午前10時1分 再開)

○上村高義委員長 再開します。

認定第1号所管分の審査を行います。

補足説明を求めます。

登阪市民生活部長。

○登阪市民生活部長 認定第1号、平成27年度摂津市一般会計歳入歳出決算所管分のうち、市民生活部にかかわります項目につきまして補足説明させていただきます。

歳出でございますが、146ページ、款6商工費、項1商工費、目2商工振興費の繰越明許費1,152万円は健都イ

ノベーションパーク企業立地推進事業に係ります経費を全額翌年度に繰り越したものでございます。

以上、市民生活部にかかわります項目の補足説明とさせていただきます。

○上村高義委員長 平井保健福祉部理事。

○平井保健福祉部理事 それでは、認定第1号、平成27年度摂津市一般会計歳入歳出決算のうち、保健福祉部で所管し、駅前等再開発特別委員会においてご審査いただくものについて補足説明させていただきます。

款4衛生費、項1保健衛生費、目2予防費のうち、国立循環器病研究センター等との連携による健康・医療のまちづくり事業に係るものでございます。

摂津市一般会計歳入歳出決算書では、132ページでございます。また、決算概要の92ページに詳細を記載しておりますので、あわせてご参照お願いいたします。

歳出でございますが、節19負担金、補助及び交付金のうち、操車場跡地まちづくりポータルサイト(仮称)運営負担金38万5,978円につきましては、北大阪健康医療都市に関する情報発信を目的に、吹田市と共同しましてポータルサイトの運営を行うために執行した経費でございます。

説明は以上でございます。よろしくお願い申し上げます。

○上村高義委員長 山口建設部長。

○山口建設部長 認定第1号、平成27年度摂津市一般会計歳入歳出決算につきまして、建設部にかかわります部分につきまして、目を追って、その主なものについて補足説明をさせていただきます。

まず、歳入につきましてご説明を申し

上げます。

摂津市一般会計歳入歳出決算書の40ページをお開き願います。

款14国庫支出金、項2国庫補助金、目4土木費国庫補助金、節3都市計画費補助金は、千里丘西地区市街地再開発準備組合が千里丘西地区再開発の事業化に向けて行う街区整備計画案の策定や、関係権利者の合意形成活動の取り組みなど、まちづくりの初動期活動に対して交付された社会資本整備総合交付金でございます。

50ページをお開き願います。

款15府支出金、項3委託金、目2土木費委託金、節2都市計画費委託金は、連続立体交差事業に係る関連側道及び関連街路の予備設計等について大阪府より委託を受けたことによる連続立体交差事業調査委託金でございます。

52ページをお開き願います。

款16財産収入、項2財産売払収入、目1不動産売払収入、節1土地売払収入は、吹田操車場跡地土地区画整理事業区域内7街区の一部及び8街区の土地売払収入でございます。

60ページをお開き願います。

款19諸収入、項4目2雑入、節1雑収入は、JR千里丘駅周辺の道路整備に係る鉄道運輸機構負担金でございます。

次に、歳出につきましてご説明を申し上げます。

決算書の158ページをお開き願います。

款7土木費、項4都市計画費、目2街路事業費では、執行率53.3%でございます。詳細については、決算概要118ページ、また、事務報告書217ページから218ページ及び220ページに記載しておりますので、あわせてご参照

願います。

160ページをお開き願います。

節11需用費の主なものにつきましては、吹田操車場跡地まちづくり事業に係る修繕料でございます。

節13委託料は、その内訳としまして、吹田操車場跡地まちづくり事業に係る調査設計等委託料、阪急京都線連続立体交差事業に係る連続立体交差事業調査委託料、吹田操車場跡地まちづくり事業に係る千里丘78号線引込管工事等委託料及び千里丘新町まちびらき記念式典の開催に係る記念式典委託料でございます。

節15工事請負費は、市道千里丘23号線歩道等整備に係る吹田操車場跡地周辺整備工事でございます。なお、繰越明許費につきましては、吹田操車場跡地まちづくり事業のうち、市道千里丘78号線道路改良電線共同溝整備に係る吹田操車場跡地周辺整備工事の繰越明許であり、その内容といたしましては、決算概要30ページに記載しております繰越明許費繰越計算書の上から4段目と、同じく決算概要118ページをあわせてご参照願います。その理由といたしまして、近接する他の工事との調整により、年度内工事完了が困難となったことから、平成28年度への明許繰越について可決いただいたところであります。

節19負担金、補助及び交付金は、阪急京都線連続立体交差事業に係る大阪府連続立体交差事業協議会負担金と、吹田操車場跡地まちづくり事業に係るUR都市機構の施行による吹田操車場跡地土地区画整理事業負担金及び連続立体交差事業に係る大阪府の調査に伴う連続立体交差事業調査負担金でございます。

節22補償、補填及び賠償金は、吹田

操車場跡地周辺整備工事に支障となる電柱及びその架空線、既設ガス管の物件移転等補償費でございます。

決算書162ページをお開き願います。

目5再開発事業費では、執行率94.8%でございます。詳細については、決算概要120ページから122ページにかけて記載いたしておりますのでご参照願います。

節19負担金、補助及び交付金は、千里丘西地区再開発の事業化に向けて、準備組合が行う街区整備計画案策定事業に対し、摂津市再開発推進団体等補助金交付要綱に基づき、国からの補助金と合わせて、市が準備組合に対して支援する摂津市再開発推進団体等補助金でございます。

以上で、認定第1号、平成27年度摂津市一般会計歳入歳出決算認定の建設部にかかわります部分についての補足説明とさせていただきます。

○上村高義委員長 説明が終わり、質疑に入ります。

市来委員。

○市来賢太郎委員 おはようございます。

それでは、3点ほど質問したいと思えます。

決算概要に基づいて質問します。

まず、92ページの健康・医療のまちづくり事業ですけれども、ポータルサイトの運営をされたと思うんですけれども、もともと当初のこのサイトを運営する目的がどうであったのかということをお教えいただきたいのと、あと、共同でやっておられますけれども、負担割合がどうだったのかということについてお伺いしたいと思います。

続きまして、決算概要の118ページ、吹田操車場跡地まちづくり事業ですけれども、金額が大きく予算組みがされていたので、何をしようと思って予算を組んで、そして執行率が低いので、何ができて、何ができなかったのか、27年度の総括的なことについてお伺いしたいと思います。

それと、120ページの千里丘西地区市街地再開発事業ですけれども、これは一般質問でもありましたので、大体の概要は聞いておりますけれども、私、千里丘3丁目のあたりに住んでまして、千里丘駅に行くには10分もかからないんです。岸辺駅に行くには25分ぐらいかかるんですけれども、雨の日に家族を送り迎えとかをするときには、必ず岸辺駅を使うんです。千里丘の東に行くと、ガードを歩いていかないとだめなので時間がかかりますし、西では人の乗り降りが車で送り迎えできないので、岸辺駅のほうが便利なんで、わざわざ遠い駅を、最寄りの駅ではないところを使って人の送り迎えをするんですけれども、一生懸命にデリケートなことで調整をしていただいて、どうにか千里丘西の再開発に向けて取り組んでいただいていることはわかりますけれども、地域の住民の切なる思いであるということをもう一つ申し添えまして、この点は要望としておきます。

二つです。

○上村高義委員長 丹羽課長。

○丹羽保健福祉課長 保健福祉課にかかわりますポータルサイトの目的並びに負担割合についてご答弁させていただきます。

本ポータルサイトにつきましては、北大阪健康医療都市、健都に関する情報発信を大きな目的としております。関係

機関の組織を超えて、吹田市と共同で運営、構築してまいりました。

負担割合につきましては、吹田市が68%、摂津市が32%という割合で負担をさせていただいております。これは、本市と吹田市が平成20年度に締結した吹田操車場跡地地区の整備に関する基本協定に基づき取り交わされました吹田操車場跡地地区の補助金の負担割合に関する確認書において取り決められた割合を重用させていただいております。この割合は、操車場跡地全体に占めるそれぞれの市域の面積が基本となっております。

以上でございます。

○上村高義委員長 西川課長。

○西川都市計画課長 吹田操車場跡地まちづくり事業の事業費についてご説明させていただきます。

この事業費につきましては、予算当初2億2,000万円余りの予算であったものが、決算では6,500万円という支出をしております。

予算の内容につきましては、摂津市が工事を行います千里丘78号線及び千里丘23号線の工事を実施しておりますほか、吹田操車場跡地の区画整理事業の負担金ということで当初予定してございました。千里丘23号線につきましては順調に進んでおりましたが、千里丘78号線の工事につきましては、工事内容につきましては道路整備事業と、それから電線共同溝の工事を予定しておりましたが、28年度へ繰り越しをさせていただきましたかげんで執行率が悪くなっております。区画整理事業につきましては、当初予定どおり支出してございまして、執行率が低くなった原因としましては、1億2,000万円の繰り越しを27年

度に予算繰り越しさせていただいたことが原因になってございます。

以上でございます。

○上村高義委員長 市来委員。

○市来賢太郎委員 ポータルサイトの運営と負担割合について答弁いただきました、わかりました。

サイトはもうできており、私も拝見させていただきました。どのような人に見ていただきたかったのかなと少し感じたのと、あと、今どれぐらいヒットがあるのか、教えていただきたいと思います。

それと、吹田操車場跡地まちづくり事業ですけれど、単純にですけれども、28年度に繰り越したということは工事がおくれているということですかね。教えてください。

○上村高義委員長 丹羽課長。

○丹羽保健福祉課長 それでは、続きまして、保健福祉課にかかわりますご質問にご答弁させていただきます。

どのような方に見ていただきたいかというご質問だったかと思っておりますけれども、今、吹田市と合同で、健都の開発が進められておりますけれども、健康に関する情報を発信しておりますので、両市民の方に見ていただきたいということと、あと、国循とか、吹田市民病院も協賛いただいておりますので、そこら辺の関連も来られるよというところも発信していきたいということと、今後は、イノベーションパークの公募等も進められてますけれども、そこら辺の情報も載せていきたいということを考えております。

もう一点、アクセスの件数ということでご質問かと思っておりますけれども、平成27年度につきましては13万3,150件のアクセスがございました。1か月当たり約1万1,000件のアクセスとい

う状況になってございます。平成28年度におきましては、10月31日までの件数でございますが、9万993件ということで、一月当たりに直しますと約1万3,000件ということで、前年度に比べ、月平均でいきますと2,000件ほどアクセスの件数がふえている状況になってございます。

以上でございます。

○上村高義委員長 西川課長。

○西川都市計画課長 吹田操車場跡地の工事につきましての繰り越しについてご説明させていただきます。

繰り越しをさせていただいた工事としましては、千里丘78号線の道路整備と、それから電線共同溝の工事を6月30日から3月末までという工事期間で当初やっておりました。近隣の近接工事の調整により少しおくらせてございまして、工事の完成は4月22日に完成しております。ただ、工事全体は、まちびらきもございましたので、それに間に合うようにはしておるんですが、若干おくられている工事工程がございまして、4月になっているということで、また27年度中の支払い請求がなかったということで、28年度のパイメントになっております。工事は4月で完了してございます。

○上村高義委員長 市来委員。

○市来賢太郎委員 ポータルサイトの件につきまして、ヒット数だとか教えていただいて、結構見ていただいているんだなと驚きました。例えば、これから移転を考えている企業さんだとか、これから始めようとしておられる方だとか、積極的に見られると思うんですけど、一般市民の方、それほど自分から検索して見ようとは思わないと思うんです。私も、自分で検索して調べましたけれども、健都

と調べても、吹田・摂津ポータルサイトと調べても、結構下のほうに出てくるんで、どうにかご尽力いただいて、上のほうに出て、一般の方もたくさん見ていただけるような運営に心がけていただきたいと思います。以上で、要望です。

続きまして、吹田操車場跡地まちづくり事業ですけれども、執行率の件だとかご説明いただいて、わかりました。

例えばですけれども、委員長が一般質問でよくされてましたけれど、南千里丘のまちづくりのときに、ポストがなかなかつかないとかっていう件があったかと思うんですけども、そういったことで、まちができて、住宅が1,000戸ふえて、それで子どもがふえるだとか、人がふえるだとかってなったときに、何が必要なんだろうというのを、細かく、細かく考えていけばカバーできるところも、これから重々に想定していただいて、運営に努めていただきたいと思います。要望といたします。

○上村高義委員長 ほかに。

南野委員。

○南野直司委員 おはようございます。

この27年度の決算から、また、駅特に戻らせていただきました。またお世話になりますけれども、よろしくお願ひします。

何点か、質問をさせていただきます。

まず1点目ですけれども、決算概要92、93ページの健康・医療のまちづくり事業、決算額79万6,613円の中の、1点目には健康づくり推進協議会委員報酬についてでございます。

市のホームページの保健福祉の窓口で確認をいたしますと、本市では、市民の健康づくりの総合的な推進のため、必要な事項について調査・審議する健康づく

り推進協議会の中に、健康・医療のまちづくり検討部会を設置し、国立循環器病研究センター移転を見据えた健康・医療施策の方向性について議論していますということで、平成26年10月29日に第1回健康・医療のまちづくり検討部会が開催され、そして27年6月1日に第2回の健康・医療のまちづくり検討部会が実施されておりますが、改めての確認でございます。この健康・医療のまちづくり検討部会の開催は合計2回の開催であったのか、そしてまた、今後の開催予定はあるのかどうかということをお聞きしたいと思います。

それと、あわせて関係することだと思っておりますので、この際お聞かせいただきたいんですけども、吹田市役所のほうで実施されております北大阪健康医療都市を中心とした健康・医療のまちづくり会議について、例えば、保健福祉の堤部長であったり、平井理事も参加されておられると思いますが、この会議、どのような案件をお話しされているのか、この際お聞かせいただきたいと思っております。

それから、2点目でございます。市来委員からもご質問ありましたけれども、この健康・医療のまちづくり事業の中の操車場まちづくりポータルサイト（仮称）運営負担金についてでございます。

国際級の医療クラスターの実現に向けて、国立循環器病研究センターを中心とした産学官民連携による医療イノベーション拠点、健康・医療のまちづくりを吹田市と摂津市の共同運用で負担金を出し合い、全国に情報発信していくということでございます。インターネットから摂津市のこれも、取り組みを見させていただきました。

先日、15日、ウォーキング、僕も参

加させていただきました、健都グリーンウォークを開催されまして、吹田市の皆さん、そして摂津市の皆さん、摂津市は55名、そして吹田市の方は52名で、約4キロ、健都のいろんなコース、緑道を歩かせていただきまして、健都のまちづくりも、要所、要所で、防災公園であったり、いろんなまちづくりのご説明をいただいたわけでございます。大変多くの方が参加されておりましたけれども、こういった、細かい質問になるんですけど、そのポータルサイトの中に、これから検討されていくと思うんですけども、吹田市と摂津市と共同でこういったすばらしい取り組み、すいたんも来てましたし、セッピーも来てましたし、そういう何か画像を通して、こんなウォーキングしてます、こんな健康づくりやりますということをどんどん、僕、アップされる、そういう窓口を設置されたらいいんじゃないかなと思っておりますけれども、その考えについてお聞かせいただきたいと思っております。

次に、3点目でございますけれども、これは決算概要118ページです。阪急正雀駅前地区整備支援事業ということでございます。

この正雀地域につきましては、大規模な再開発は非常に困難な状況であると私自身も認識しております。そんな中で、駅前の基盤整備の充実に向けての道路、あるいは歩道の拡幅工事の推進をさせていただいております。もう一点は、正雀駅前地区まちづくりのワークショップを継続的に開催させていただいていると思っております。

さまざまな可能性を探っていただいて、地域の現状を踏まえて、それぞれの立場の人が、積極的にさらにまちづくり

に参加して、協力ができるような仕組みづくりについては、やはり支援をしていかなあかんと思うんですけれども、そのお考えをお聞かせいただきたいと思います。

次に、これは同じく118ページです。吹田操車場跡地まちづくり事業についてでございます。

平成27年度の市政運営の基本方針にもこのようにありました。吹田操車場跡地まちづくり事業については、千里丘新町のまちびらきに向けて、土地区画整理事業を進めるとともに、周辺道路の整備に取り組んでまいります。また、クリーンセンター及び正雀下水処理場跡地につきましては、吹田市と連携して、医療クラスター形成に向けた取り組みを進めてまいりますということでありましたので、これは、事業としては106ページの健都イノベーションパーク企業立地推進事業と重なるかもしれないですが、この吹田市と連携した医療クラスター形成に向けての取り組みの27年度の取り組み、そして28年度どうであったのか、その辺、お聞かせいただきたいと思います。

それから、5点目でございます。118ページで、阪急京都線連続立体交差事業でございます。

平成26年、そして27年度は、沿道周辺におきましての事業化に向けた設計、そして測量などの調査を行いますということでありましたので、中身について、この27年度ということで、取り組みについてお聞かせいただきたいと思います。

それから、最後です。決算概要120ページです。千里丘西地区市街地再開発支援事業でございます。

千里丘西地区市街地再開発準備組合は、平成25年から、国、そして市の補助金を活用して、3か年をかけて街区整備計画案を策定されました。今後は、JR千里丘西地区での準備組合の関係権利者様の合意形成が大きな課題であると認識しております。この合意形成が行われますと、都市計画決定が打たれて、そして事業認可の手续と進んでいくわけですが、その方向性、うまくいってといいますか、進んでいく方向性についてお聞かせいただきたいと思います。

1回目、以上です。

○上村高義委員長 小寺参事。

○小寺都市計画課参事 南野委員からのご質問にお答えいたします。

阪急京都線連続立体交差事業の27年度の取り組みについてなんですけれども、本事業は、過去の件から話しますと、平成24年度に大阪府の中期計画に位置づけられまして、その後、大阪府の事業の再評価でも、事業の必要性、費用対効果も認められまして、その後、平成25年度から社会資本整備総合交付金を用いて、国費を使ってさまざまな検討を進めておるところでございます。大阪府が事業主体となっております、国費と市の負担と府みずからの府費を合わせまして、その一部を本市に委託という形で歳入を受けまして、本市でさまざまな検討を行っておるものです。

この検討というのは、26年度から始めておりまして、鉄道高架になりますと、その両サイドに、基本的には環境側道ということで、側道を設置することになっております。それと、関連道路としまして、都市計画道路坪井味舌線は、阪急の鉄道とJRの間は未整備ですので、その整備、それと千里丘三島線、産業道

路ですけれども、ここの整備、あと府道になりますけれども、府決定の都市計画道路になりますけれども、千里丘寝屋川線の整備、それと太中線、市決定の都市計画道路になりますけれども、この関連道路としまして、側道とあわせて、連続立体交差の事業の推進とあわせて整備していく予定にしております。

そこで、平成26年度から、大きく言いますと、側道と関連街路の整備の検討を進めておりました。26年度につきましては、概略の設計を行いました。それにあわせて、現地の平面測量等行ってきました。

27年度の取り組みなんですけれども、今年度、28年度に都市計画の決定の流れに乗せていくということで、平成28年度末都市計画決定と都市計画変更を目標にしておりましたもので、大体、都市計画の流れ、1年ぐらいかけて、地元説明会、公聴会等進めていきますもので、それに向けて、27年度としましては、さらに設計の精度を上げていきまして、概略設計から、いわゆる予備設計という熟度上げていったという業務内容を行いました。それとともに、都市計画の素案という、図面なり、そういう体裁を整えまして、今年度の、28年度の地元説明会であるとか、大阪府との都市計画の協議に用います資料を作成する、そういった業務もあわせて実施したものでございます。

27年度の連立事業の取り組みについては、以上でございます。

○上村高義委員長 西川課長。

○西川都市計画課長 南野委員の2点のご質問についてお答えさせていただきます。

まず、1点目は、阪急正雀駅前地区整

備支援事業につきましてでございます。

正雀駅前の再開発につきましては、平成4年に正雀駅前まちづくり懇談会より提言を受けて、駅前の再開発についての調査、それから地域の合意形成を図ってきたところでございますが、バブルの崩壊や景気が低迷するなど、再開発事業に向けた機運は当時は高まらなかったと聞いてございます。

現在行っておりますワークショップにつきましては、平成18年度から地域の方々と開催しておりました、片方では、駅前の整備につきましては、今、道路交通課が駅前の用地買収を行ったり、駅前の整備を行っていくという反面、ワークショップにつきましては、18年のときから毎月1回開催しておりました、地域コミュニティの話題でありますとか、防災の対策について話し合われるような、井戸端会議的な会議になっております。

本来のハード対策は非常に厳しい状況で、駅前の活性化については、その会議の中で話し合われる内容になりますが、ワークショップの内容につきましては井戸端会議的な内容を濃くしておりました、我々としましても、ソフト面のまちづくりというところでは、少しまだあり方というのを考えていきたいと考えております。

続きまして、千里丘西地区の市街地再開発支援事業につきましてご説明させていただきます。

平成25年から27年度にかけて、街区整備計画案を策定して、また地権者の合意形成を図ってまいりました。それからさらに、28年度におきましても、6月の補正をお願いして、400万円の支援事業、さらに合意形成を図る活動というのをさせていただいております。今年

度中をめどに、準備組合の結論を出していくということで進んでおりますが、地権者合意につきましては今順次図っているところでございます。

結論として、準備組合の再開発のそのまま進むということになりますと、準備組合としての事業推進決議、それから都市計画手続を進めまして、平成29年度に都市計画決定を打ち、その後、事業認可、権利変換計画の認可、それから工事に着手してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○上村高義委員長 丹羽課長。

○丹羽保健福祉課長 それでは、保健福祉課にかかわります3点のご質問にお答えしたいと思います。

まず、1点目でございます。健康づくり推進協議会の委員報酬に関するご質問かと思えます。

前年度、平成27年度におきましては、特に、今、委員がご指摘ありました、医療のまちづくり検討部会を中心に3回開催させていただいております。中身としましては、ご存じのように、摂津市保健福祉総合ビジョン2016、これはまさに健都、北大阪健康医療都市を契機として、本市の将来的な健康づくりを考えていくということでご検討をいただきました。

それと、吹田市と合同で、北大阪健康医療都市を中心とした健康・医療のまちづくり会議の内容についてのご質問かと思えますけれども、この会議につきましては、委員おっしゃっておりますように、吹田市のほかにも、あと国循、あと吹田市民病院、あと開発のUR等々、健都の開発に関する方々にご参集いただいて、健都について、健康・医療をどう進

めていくかということを検討する会議になってございます。現状では、各街区の進捗状況の報告等を受けながら、どのように健康・医療のまちづくりを進めていくかということを議論させていただいている会議になっております。

また、ポータルサイトにつきましては、これから、先ほど市来委員からもありましたけれど、市民の方に見てもらうために工夫をとというアドバイスかと思えますけれども、先ほどおっしゃられたイベントは吹田市と健都を契機に、ウォーキングイベントを開催させていただきました。既に、本市のホームページにはアップはしているんですけども、確かに、こういう市民と共同実施させていただいた事業につきましても、ポータルサイトにアップをしていくように検討していきたいと考えております。

以上でございます。

○上村高義委員長 山田次長。

○山田市民生活部次長 クリーンセンター及び正雀下水処理場跡地への吹田市と連携した医療クラスター形成についてのご質問にお答えいたします。

まず、27年度中の取り組みということでございますけれども、27年5月に、本市及び吹田市、大阪府、それから国立循環器病研究センターの4者で、国立循環器病研究センターを核とした医療クラスター推進協議会というものを発足させて、この医療クラスター形成について協議を開始しております。

昨年度は、具体的には、名称の決定、それからコンセプト、メーンターゲットの決定、インセンティブの検討などを行っております。

まず名称につきましては、このクリーンセンターと正雀下水処理場の跡地を健

都イノベーションパークということで名づけまして、関係者へのPR、周知に努めるということといたしました。

それから、このコンセプトということで、健康と医療をキーワードとした先端的な研究開発を行う企業等の研究施設等の集積によるイノベーションの創出ということコンセプトといたしました。

メーンターゲットにつきましては、医療機器、医薬品、再生医療、健康関連の製品、サービス等の革新的な研究開発を行う企業等を中心といたしました。

インセンティブということなんですけれども、本市においては企業立地等促進制度がございますので、これをこのイノベーションパークへの企業の進出の時期に合わせて延長、改正ということで、これについては28年の3月議会でご可決いただいたところでございます。同様に、大阪府におきましても、成長産業特別集積税制というのを健都に合わせて優遇制度を設けたということでございます。

それから、28年度に入りましての現状ということでございますけれども、一つは、企業ニーズを改めて把握するというところで、吹田市と共同で、金融機関や調査機関等へのアンケート、ヒアリング等を行っております。それから、本市がコンサルタントに委託しまして、企業誘致に関する助言をいただいております。

このアンケート、ヒアリングの結果や助言を踏まえて、現在、複数の関連企業やデベロッパーと、あるいは総合商社等と接触しているほか、関連するような企業のセミナー等にも参加して、ニーズの把握とPRに努めているところでございます。また、企業誘致に実績のあるような大阪府とか神戸市とか、そういう先

進事例の研究等もしております。

それと、企業誘致が円滑に行われるようにということでの取り組みで、旧クリーンセンターと区画整理の9街区との境界にありましたコンクリート擁壁の撤去等も行っております。

それから、これもコンサルタントに委託しまして、事業用地に関する必要な情報の収集整理を行って、募集要項案の作成に取り組んでいるところでございます。

以上です。

○上村高義委員長 南野委員。

○南野直司委員 ご答弁いただきました。ありがとうございます。

1点目の北大阪健康医療都市を中心とした健康・医療のまちづくり会議の中身、そして健康・医療のまちづくり検討部会についてご答弁いただきました。この健康・医療のまちづくり検討部会では、吹田操車場跡地を中心とした健康・医療のまちづくりの状況など、イノベーションパークにおける企業誘致の現状、そして健康・医療のまちづくりに関する市民アンケートの結果についてなどなど、多くの案件が検討されているわけでございます。

ここで、この際お聞かせいただきたいと思っておりますけれども、平成30年度の国立循環器病研究センターの移転とあわせて、この国循だけではなくて、同じく移転してくる吹田市民病院との連携も大事なかなと思うわけでございます。私自身も、今後の大きな課題ではないかと思っているわけでございますけれども、この際、この吹田市民病院さんとどのように連携をしていくのか、健康・医療のまちづくりという観点からも、もし考えなどありましたら聞かせいただきたいと思

ます。

それから、2点目でございます。操車場跡地まちづくりのポータルサイトについてご答弁をいただきました。

摂津市では、市民の暮らしがやさしく笑顔があふれるまちになることを目指して、健康づくりの推進及びその体制づくりの強化に取り組んでいただいております。一つは、生活習慣病の発症・重症化予防。そして二つ目には、地域の仲間とともに楽しく健康づくり。三つ目には、歩きたくなる・でかけたくなる町づくり。四つ目には、健康を支え、守るためにみんなで健康づくり。この4点を柱に、まちごと元気を目指し、さまざまな施策を展開していただいているということでございます。

そして、生活習慣病予防と健康づくりの先進地域という大きな目標に向けて、これは保健福祉総合ビジョンの中のまちごと元気推進プランを徹底的にやりながら、中心に取り組んでいくということで、私自身も認識をしているわけですが、ございますけれども、また細かい質問になりますけれども、このポータルサイトの摂津市の窓口に、この健康福祉総合ビジョンの中の、ビジョンもたくさんありますけれども、この中のまちごと元気推進プランは最低限アップしておかなあかんの違うかなと思います。3年後、平成30年の国循の移転に伴って、見直し等々あるのかなと、そういう理由でまだアップされていないかもしれませんが、ぜひアップしていただきたいと思うんですけれども、その辺、お聞かせいただけたらと思います。

3点目でございます。正雀地区の取り組みにつきましてご答弁いただきました。

私自身も、いろんなイベントに参加させていただいてます。たそがれコンサートであったり、楽市であったり、正雀の皆さんというのは、すごくもう地域力が強くて、団結力もありまして、すばらしい皆さんだなと感謝をしているところでございます。また、今回は、改めてこのデイハウスでしたが移転しますし、十三高槻線が正雀側が開通して、そしてバスも入ってきます。どうか、この歩道拡幅、あるいは道路の拡幅もしっかり進めながら、やはり粘り強く、ワークショップも開催されながら、いろんな意見を聞きながら、さらにまちづくりの拡大を図れるよう、これ、要望としておきますので、よろしく願います。

それから、4点目の吹田操車場跡地まちづくり事業の中の吹田市と連携した医療クラスター形成に向けた取り組みでございます。ご答弁いただきました。

国立循環器病研究センター、そして大阪府、吹田市、摂津市とで、国循を核とした医療クラスター推進協議会を立ち上げられ、さまざまな観点から医療クラスターの形成に向けて検討されておると認識しております。そして、事業者の募集という流れだと認識しております。この医療クラスターの形成に向けた健都イノベーションパークの期待、どのようにまちづくりの期待をされているのか、思いなどお聞かせいただけたらと思っております。

それから、5点目でございます。阪急京都線連続立体交差事業の26、そして27年度の取り組み、詳しくご答弁いただきました。

この阪急京都線連続立体に向けて、これに関連する道路等の都市計画案に関する説明会、8月にコミュニティプラザで

3回開催されまして、私も1日だけ行かせていただきました。本当に多くの方が参加されていたわけでございますけれども、やはり市民の皆さんからご相談をいただくのは、いつごろを完成目標にして取り組まれているのか。そして、もう一点は、ホームページでも記載していただいておりますけれども、沿道にお住まいの方、そして新築、改築等をご検討されている皆さんへということで、沿線にお住まいの方、または権利を有する方で、連続立体交差事業にご関心のある方、または新築、改築等をご検討されている方は、都市計画課までお気軽にお問い合わせくださいと載せていただいております。このご質問が私も多くいただいております。確か、説明会でも言うていただいていたと思います。それから、いろんな駅特の協議会等々でお話ししていただいていたと思いますけれども、この28年度で都市計画決定をして、それから、29年度で都市計画事業認可をいただいているという流れで、確か、平成44年ぐらいの完成目標に向けてと言われていたような、現時点で、完成目標にしている年、教えていただきたいと思えます。

それから、先ほど言いました沿線のお住まいの方で、ご相談をされる方で、どれぐらいの方が市役所にご相談に来られているのかも教えていただきたいと思えます。

最後の西地区の再開発の件でご答弁いただきました。わかりました。

このJR千里丘西地区につきましては、まちの将来像の実現に向けて、駅前広場などが整備され、そして安全・安心、そしてにぎわいの空間づくり、また環境に優しい、緑が豊かな魅力的な地区

となりますよう、さまざまなハードルがあると思いますが、引き続きの取り組みをお願いさせていただきまして、これは要望とさせていただきます。

以上で、2回目終わります。

○上村高義委員長 小寺参事。

○小寺都市計画課参事 ただいまの南野委員からのご質問にお答えします。

阪急京都線連続立体交差事業の現時点での完成目標と今年度開催しました説明会、それ以外での問い合わせの数等に関する質問だったかと思うんですけども。

まず、説明会につきましては、平成28年8月28日日曜日、29日月曜日、30日火曜日の3日間で、コミュニティプラザで説明会を実施いたしました。数多くの方にご参加いただきまして、合計で約440名の多数の方に参加していただきました。

説明の内容としましては、先ほど申し上げたんですけども、連続立体交差事業に係る鉄道、都市高速鉄道と言いますけれども、阪急電鉄京都線の計画とそれに伴う環境側道、合計7路線あるんですけども、その内容の説明と南千里丘地区の地区計画が若干変更になるということの説明、それと、関連道路としまして、交差する都市計画道路の幅員等の変更、この内容について説明をいたしました。

その説明会の周知の内容としましては、沿道の土地、建物の所有者へ案内文を送付いたしますとともに、沿道の自治会への回覧、さらに直接ポスティング、それと広報せつつへの掲載、これで十分に周知させていただきまして、約440名の参加をいただいたところでございます。

一般的に窓口での問い合わせなんですけれども、定期的に連続立体交差事業の内容についての問い合わせ、若干ですけれどもございまして、ただ、説明会を開いた関係で、その説明会前後におきましては、ある程度まとまって、約20件前後の問い合わせが集中してございました。その内容につきましては、当日参加できないので、その説明会の説明をしていただきたい等の内容でございました。

それで、現時点での完成目標なんですけれども、今後のスケジュールとしましては、平成28年度、今年度末、都市計画決定変更を行いまして、平成29年度末を目途に事業認可取得の予定で進めております。それでいきますと、事業認可後に現地に入りまして、用地測量ですとか、立ち会いとかを行いまして、平成30年度以降、そういう用地買収の業務に入っていきたいと思っております。用地買収の計画ですとか、工事の計画というのはこれから大阪府、阪急電鉄で詳細を詰めていくわけなんですけれども、おおむね用地買収には5年から10年程度かかりまして、工事につきましてはおおむね10年程度かかると想定しております。この期間というのは若干はラップするかと思いますので、そういう関係でいきまして、現時点での連続立体交差事業の高架化する完成の年度の目標としましては、平成45年度末ということで公にしております。説明会でもその旨ご説明させてもらったところでございます。

以上です。

○上村高義委員長 平井理事。

○平井保健福祉部理事 南野委員の健康・医療のまちづくりに関しまして、吹田市民病院との連携も重要ではないかというご質問につきましてお答え申し上げます。

す。

先ほど、課長からもご答弁ございましたが、現在、健康・医療のまちづくり会議という会議がございまして、この会議のメンバーの中に我々摂津市、吹田市、吹田市民病院、国循さん、あるいは両市の三師会の方々もメンバーになっております。ですので、我々としましては、具体的にこれから健康・医療のまちづくりという大きな課題につきまして、この会議の場でいろいろ議論していくことになろうかと思うんですが、吹田市民病院との連携につきましても、この会議の場で議論していきたいと考えております。

具体的に、今すぐどういったことがあるかということ、現段階では特にまだ検討段階でございしますが、例えば、吹田市民病院も健都に、吹田市から摂津市の近くに来られるということですので、例えば、摂津市民の方の救急の受け入れだったりとか、そういったことにつきまして議論できればと考えておりますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

○上村高義委員長 丹羽課長。

○丹羽保健福祉課長 保健福祉課にかかわりますポータルサイトの充実ということについてのご質問にお答えしたいと思います。

今、南野委員がおっしゃいましたように、昨年度策定いたしました保健福祉総合ビジョン2016の中で、まちごと元気推進プラン、これの推進という計画自体が、先ほどご答弁させていただいたように、北大阪健康医療都市を契機にして、市民の健康・医療を進めていくということになってございます。また、プランの中の重点プロジェクトとして、あの手、この手で健康情報をたくさんお届け

します、知って得する健康情報で、市民丸ごと健康マイスター化計画ということで、一つ情報提供を重点プロジェクトとして掲げているところでございます。

委員がご指摘いただきましたように、やはりこのような計画でございますので、できれば早急に吹田市と協議させていただいて、本計画について、吹田市もあわせて計画をつくられていますので、そこら辺、連携して、市民の方にPRできるように、ホームページにアップしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○上村高義委員長 山田次長。

○山田市民生活部次長 健都イノベーションパークへの期待、思いということでご答弁させていただきます。

本市では、平成27年3月に正雀下水処理場跡地まちづくり基本計画というものを策定しておりまして、その中で、この地域におけますまちづくりの基本方針や方向性ということで、医療・健康関連産業の集積による都市活力のあるまちづくりでありますとか、周辺住環境と調和したまちづくりということで掲げておりまして、このあたりを基本的な考え方として、先ほど申し上げましたようなターゲット、コンセプト、こういったことで、今後、企業を募集していきたいと考えております。

○上村高義委員長 南野委員。

○南野直司委員 ご答弁いただきました。

1点目の国立循環器病研究センターとあわせて、吹田市民病院との連携ということでご答弁いただきました。ありがとうございます。

また、この際お聞かせいただきたいんですけれども、関西大学さんと摂津市

は、健康まちづくりのほか、地域の活性化にかかわる連携協力を進めるための協定を締結いたしましたけれども、これによりまして、今後は特色ある地域づくり、そして健康・医療のまちづくりをはじめ、地域の活性化に関する共同研究等の取り組みを協力して進め、その成果を地域へと生かしていけると認識しているところでございますけれども、あわせて、先ほど吹田市民病院との連携、ご答弁いただきましたけれども、関西大学との連携について、どのように進んでおるのか、この際お聞かせいただきたいと思っております。

それから、2点目の吹田操車場跡地まちづくりのポータルサイトの中の健康福祉総合ビジョンの中のまちごと元気推進プランについて、全国に発信してほしいということで質問させていただきました。ご答弁をいただきました。どうか、摂津市の取り組みが全世界へ発信できるよう、引き続き、このポータルサイトの構築をさらに強めていただきますよう、これは要望としておきます。

それから、健都イノベーションパークの期待についてご答弁いただいたわけでございます。この健都イノベーションパークの利用に向けた三つの基本方針、国立循環器病研究センターを中心としたオープンイノベーションの実現、また健康関連産業との連携を促進する場となることを目指す。そして、また地域企業にとってビジネスチャンスの拡大につながる場となることを目指す。そして、3点目には、何よりも市民の皆さんにとって、医療・健康関連の活動の場であるとともに、さまざまな取り組みや情報発信により、健康寿命の延伸につながる場となることを目指していただきまして、これは

要望としておきますので、よろしく願いいたします。

それから、5点目の連続立体交差事業について丁寧なご答弁をいただきました。

ありがとうございます。

平成45年度末目標ということでございます。これからさまざまなハードルがあると思えますけれども、この完成年度、目標年度に向けて、全力で取り組んでいただきますよう要望としておきます。

そして、不安に思われている市民の方が、まだ、どこに連絡していいかわからないという方もいらっしゃると思えます。説明会になかなかお仕事等で来られていない方もいらっしゃると思えますので、引き続き、ホームページ、あるいは広報等で、都市計画課までご相談くださいと、丁寧な取り組みをよろしくお願いいたしまして、要望としておきます。

以上でございます。

○上村高義委員長 川口参事。

○川口保健福祉課参事 それでは、ご質問の関西大学との連携協定についてご答弁させていただきます。

27年度、保健福祉課が関西大学と共同研究をさせていただいたものに、スマートヘルシ俱樂部というものがございます。

こちらは、市民の方など約50名を対象に活動量計を貸与させていただき、歩数をできるだけ伸ばして、運動を日常生活に取り入れていただくという試みをしたところでした。

まず、事業の開始当初に、身長、体重や、あと体組成等を計測させていただきます。ウォーキングをすることによる体

への効果のお話をさせていただき、3か月後に、また同じような計測等を実施させていただきます、運動の効果を測定するという事業です。

対象者の方には、3か月間、活動量計を所持していただいた中で、栄養や運動や健康に関するコラムをメール配信させていただきます。歩数についてのお知らせや、あなたはこのチームの中で何番目に歩数が多いです等、そのようなメールを配信することで、運動意欲を高めていただくというものでございます。

一定、そのあたりの評価につきましては、血圧については、歩数が伸びた方には効果があったのではないかという分析結果もいただいている状況です。

以上です。

○上村高義委員長 南野委員。

○南野直司委員 関西大学との連携について詳しくご答弁いただきました。ありがとうございます。

国立循環器病研究センター、そして吹田市民病院、そして関西大学、また健都イノベーションパークに来られる企業等々と、強力なネットワークでこの健康・医療のまちづくりをどうか進めていただきたいと思います。小さな子どもさんからおじいちゃん、おばあちゃんまでが、健康で安心して暮らせるまちの、摂津の構築に全力で取り組んでいただきたいと思います。

先ほど、1個言い忘れましたがけれども、こういった取り組み、インターネットを通じて全国に発信していただいておりますけれども、どうか見られない方もいらっしゃると思いますので、広報等々を通じて、このまちづくりをさらに発信していただきますよう要望しまして、質問を終わります。

○上村高義委員長 南野委員の質問は終わりました。

三好委員。

○三好義治委員 それでは、何点かにわたって質問をしたいと思います。

まず、決算概要、119ページにあります吹田操車場跡地まちづくりで、これにつきましては、繰越計算書、31ページとあわせて質問していきたいと思います。繰越計算書で1億2,000万円、翌年度へ繰り越しするとなっております。この事業に関しましては、当初予算2億299万円でございます、繰り越しをするべき予算につきましては、1億3,500万円の予算で、繰り越しを本来するべき金額が1億2,193万7,400円が残額となっております。そういった中で、1億2,000万円だけの繰り越しということで、事業いうのは進捗できるのかという点が1点です。

それから、31ページの1億2,000万円の繰り越しの中に社会資本整備交付金、3,308万8,000円が社会資本整備交付金として記載されております。平成27年度、各課でも社会資本整備交付金という予算立てをしていた中で、なかなか交付金がおおりてこない事業も多々あったように平成27年度は記憶しております。これを平成28年度に繰り越していくという部分では、国の担保はとれているのかという点についてお聞かせいただきたいと思います。

それから、吹田操車場跡地につきましては、決算書の53ページで、土地売却収入が、68億7,100万円が土地が売れました。これは、昨年からの説明も伺ってきたんですが、改め確認しておきたいのが、周辺の路線価格と、この土地売却単価、こういったことを改めて

お聞かせいただきたいと思っております。それと、これまで、吹田操車場跡地の開発に対して、市が投資してきた額と今後発生する額も教えていただきたい。そういったことを聞くことによって、この吹田操車場跡地、平成30年に全て完成する全体整備の中で、トータル金額が幾らで、今どこまで進捗しているのかという部分が把握できると思いますので、お聞かせいただきたいと思っております。

それから、概要107ページの健都イノベーションです。執行率がゼロ%で、その中で、残額を全て翌年度に繰り越しということについて、改めてなぜ執行率がゼロなのかお聞かせいただきたいと思っております。

それと、ことしの平成28年3月28日、これは27年度決算の期間内に入っておりますけど、健都イノベーションパークへの国立健康・栄養研究所の移転についてということの中でお知らせいただきました。これを誘致するに当たって摂津市としてどれだけの持ち出しが必要になってくるのかあわせてお聞かせいただきたいと思っておりますし、現在の進捗状況もお聞かせいただきたいと思っております。

それから、決算概要102ページ、千里丘西地区再開発で、これまでの駅前等再開発特別委員会で平成25年から27年度にわたっての協議会とか調査については資料はいただいております。改めてここで確認をしておきたいのが、平成27年度も200万円の交付金といいますが国にいただいております、これが最終年度と伺っております。しかしながら、これを最終年度であってでも平成27年度の事業推進決議に向けた合意形成の中では、地権者49名のうちに再開発

のまちづくりに賛成の方が38名、合意形成継続が4名、未面談が4名、これで46名になるんですけど、残り3名については居所不明の方が3名おられてトータル7名の方に今はまだお会いができていない状況で、先ほど同僚議員の質問の中でいきますと、28年度中にはある程度の形を決めていきたいというご答弁がありましたけれども、今のこの現状の中でそういったことが可能なのかという部分と、3年間の調査に要してきた費用が本当に実現できるのかということがこの決算内容の中で見え隠れしてくるんですけども、これについてお聞かせいただきたいと思います。

それから、連続立体交差については南野委員が聞いていただきましたが、1点だけあります。阪急連続立体交差のスケジュール表から見ますと、平成28年度中に都市計画決定がなされるという今スケジュールをいただいているんですね。平成27年度で、我々は都市計画決定が28年度に打てるかどうかというめどまでは一切今報告を受けてないような状況で、先ほど言われてましたように平成26年度までは意見交換会は26年度7回、27年度は何回やっているのかまだお聞きもしてませんが、本当にこの28年度に事業計画決定が打てるのかということと、27年度は何回ぐらい開催してきたのかということもお聞かせいただきたいと思います。

そういう中で、都市整備部から建設部にかわって今は都市計画課ですが、都市整備部が平成27年度は職員11名の体制でやられていて、これだけ事業が目白押しにあって11名体制でやっている背景は本当にこの体制でいけるのかというのが非常に気になっておりまして、決算

概要の職員手当の額を見ますと5,300万円、都市計画課だけでね。だから、残業も相当ふえているのと違うかなと。こういったことも含めて改めてお示しいただきたいと思っております。

1回目は以上です。

○上村高義委員長 西川課長。

○西川都市計画課長 吹田操車場跡地にかかわります支出工事費についてお答えさせていただきます。

吹田操車場跡地まちづくり事業に関しましては繰り越しをしてございますが、当初1億3,500万円の予算に対して執行しておりますのは1,300万円余りの工事を執行しておりまして、1億2,000万円の繰り越しをしております。当初予定させていただいてましたのは、先ほども申しましたように千里丘23号線の歩道設置工事とそれから千里丘78号線の道路改良、電線共同溝の工事でございます。千里丘23号線につきましては1,300万円余り、この支出額と同額で工事を完了して支出してございます。繰り越しさせていただきましたのは1億2,000万円でございますが、工事の中の変更等も予想されることから1億2,000万円の明許繰越をさせていただきまして、結果9,891万円という支出になってございまして、それで支出させていただきました。この27年度の補助金、社会資本整備総合交付金につきましても同じく国費の繰り越し手続を行っております。28年度の予算ということで確保させていただいております。

続きまして、吹田操車場跡地に係る土地売却収入についてでございます。こちらにつきましては、区画整理事業の中の7街区及び8街区の土地売却収入を行い

まして、歳入としましては68億7,101万円の歳入がございました。売り払いに当たりまして土地鑑定を行っておりまして、路線価から鑑定評価をしておりまして、その鑑定評価よりもはるかに上回る入札がございましたので、それで落札してございます。

それから、吹田操車場跡地に関連しますまちづくりの事業費の推移でございますが、歳出といたしまして当初鉄道運輸機構から土地を買いました、14億円。それから、土地区画整理事業の摂津市負担としまして1億6,000万円。それから千里丘公園、今の明和池公園の負担金としまして4億8,000万円余り。その他周辺の道路整備事業等を勘案しますと、歳出としましては22億円余りのお金がかかっておりまして、これは中期財政計画の23億円を少し下回るほぼ同等額でございます。それから、歳入としましては先ほど申しました68億円余りの売り払いの歳入がございましたので、これを比較しますとかなりの利益が上がっているというところでございますが、本来なら土地区画整理事業としましては、地域の人口増進であるとかそういうものに起因するものでございまして、今回は市が鉄道運輸機構から土地を買いましたのでその利益が上がっているというところでございます。

それから、今後の支出でございますが、今基盤整備はほぼ完了しておりますので、それに伴います公園の管理等は今後出ていきますが、先ほどの比較でございますとかなりまだ差があるということで、特にこの事業で支出した額とそれから歳入はかなり歳入が上回っているというところでございます。

以上でございます。

○上村高義委員長 山田次長。

○山田市民生活部次長 健都イノベーションパーク企業立地推進事業の全額繰り越しの理由ということでございますが、この事業の予算につきましては、平成28年3月の議会で補正予算として国の地方創生加速化交付金の対象事業として提案する条件として補正予算で計上しておりますが、27年度内の事業の実施が困難であったために28年度に全額繰り越しをさせていただいたものでございます。

それから、国立健康・栄養研究所の健都イノベーションパークへの誘致ということでございますが、これは平成27年8月に国が全国の都道府県に対しまして東京一極集中の是正を図る目的で政府関係機関の地方移転に係る提案を募集し、大阪府がこの国立健栄研の移転を提案したものでございます。平成28年3月に国のまち・ひと・しごと創生本部の会議におきまして、大阪府へ健栄研が全面移転することの基本方針が決定されたということで、この28年度中に大阪府とそれから所管の厚生労働省と当該研究所で具体的な移転の規模やスケジュール、条件面などの協議を行って、一定の成案を出すというスケジュールとなっております。地元の負担、持ち出しということでございますけれども、これにつきましてはまだ具体的な話が出ておりませんので、今後、引き続き情報収集に努めて注視してまいりたいと思っております。

以上です。

○上村高義委員長 小寺参事。

○小寺都市計画課参事 三好委員からのご質問にお答えいたします。

阪急京都線連続立体交差事業につきましては、平成25年に地元説明会を大阪

府主催で開催しておりまして、これは計3回開催しております。その後、平成25年度から26年度にまたがって沿道の住民の方々に対して意見交換会を開催しておりまして、ご質問のその回数なんですけれども、自治会役員さんを集めた意見交換会としましては計2回、一般市民の方を対象としましたものとしては計7回、平成25年から26年度にかけて開催いたしております。その結果等も踏まえまして関係機関等と協議をいたしまして、26年度、27年度で委託発注いたしまして側道と関連道路の設計を精度を上げていきましたところ、今年度都市計画案というのを昨年度の成果を用いまして地元説明会を開きまして、8月の末に3回に分けて説明させてもらったところでございます。その後、都市計画の手の流れに乗っております、今後は12月下旬の17条縦覧で年明けの1月から2月にかけての市と府の都市計画審議会に都市計画案の内容を諮っていきたくと考えております。その後、28年度末に都市計画決定変更を目標に進めているところでございます。

連続立体交差事業に係る人員の体制についてなんですけれども、事業認可取得まではそういった設計業務であるとか、あと今後の用地買収を円滑に進めるために事前に用地調査等を行っているんですけれども、この辺につきましては市の職員だけでなく非常勤の職員を採用するなどしまして対応しております、ただ、事業認可取得後につきましては一般的には地元市が用地買収を役割分担として担いますので、そのあたりにつきましては大阪府と今後協議していきまして用地買収のスケジュール、工事のスケジュール等に合わせた形で今後人員の拡充を検討

していきたくと考えております。

以上です。

○上村高義委員長 人員に係ることについては、人数等々で聞いていますので明確な答弁をお願いします。

西川課長。

○西川都市計画課長 吹田操車場跡地の用地売却に係る路線価等のご質問にお答えさせていただきます。

吹田操車場跡地のこの7、8街区を売却させていただいた周辺の路線価でございますが、平米当たり9万円から11万円の路線価が設定されております、これをもとに鑑定を行って、募集に当たる、公開はしてはおりませんが予定価格を設定しております。

それから、今後の吹田操車場跡地にかかわる支出の見込みでございますが、現在、維持管理を行っております明和池公園の管理費につきましては、まちびらきは28年3月に行いましたが、27年から実質は管理をしておりまして、剪定費用が460万円余りかかってございます。また、その後まちびらきを行って電気料金それから水道料金がある上に維持管理として加算されますが、まだ1年を通してやっておりませんのでプラスはかかるということになってございます。

それから、西地区の再開発につきましてご答弁させていただきます。平成25年から27年までの間に街区整備計画案を策定しまして地域の方々の地権者の合意を得ているところでございますが、委員からお話があったようにまだ未面談者が数名残ってございます。現在、平成28年度につきましてもさらなる合意形成を図っているところでございまして、まだそれは努力中でございますが、西口の

再開発におきましては、再開発の準備組合の設立要件としましては3分の2以上の方の合意とそれから面積のクリアが必要でございます。今特に重点的に行っているのは大口地権者の地権者合意というのを十分に行っておりまして、今のところはそれを重点的に行っているところです。また、準備組合も主体的にはこの交渉には当たっていただいております、何とか大口地権者の合意に至ればと思っております。

以上です。

○上村高義委員長 小寺参事。

○小寺都市計画課参事 三好委員からのご質問にお答えいたします。

連続立体交差事業に係る人員体制なんですけれども、非常勤職員としまして平成27年度に2人増員、28年度にはさらに1人増員いたしております。事業認可取得後の実際の用地買収に係る人員、正職員も含めた人員ですけれども、この拡充につきましては今後検討してまいりたいと思っております。

以上です。

○上村高義委員長 暫時休憩します。

(午前11時34分 休憩)

(午前11時35分 再開)

○上村高義委員長 再開します。

土井次長。

○土井建設部次長 人員のことについて答弁をさせていただきます。

現在、都市計画課では今の連立事業、あとまちづくり支援係というのがございまして、そのほうでは吹田操車場跡地また西も一緒にやっております。全職員結構残業をしながら取り組んでいるところでございますけれども、27年度でおおむねは吹田操車場跡地の事業は終わってまいったところでございます。しかし、

これから連立事業に入りますと今は調査・設計の段階なんですけれども、先ほども答弁がありましたように平成30年度からは用地交渉に当たっていく必要がございます。こうなりますと1名や2名という体制ではとても賄いきれないと考えておりますので、人事にも将来的な人員につきましては計画も示させていただきながら、順次ですけれども組織の拡充を要望している状況でございます。

以上でございます。

○上村高義委員長 三好委員。

○三好義治委員 まず、吹田操車場跡地にかかわるその繰越明許と、それからこれからの投資額についてですけれども、先ほどの西川課長の答弁だけを聞くと、1億2,000万円の繰越明許をすると事業費についてはそれで完了と受けとめたんですけど、あとは明和池公園の維持管理費460万円年間ですね。これはまだどれぐらいかかるかというのは概算だと思うけれども、僕は事業費を聞いているんですよ。といいますのも、やっぱり68億7,000万円の売却収入があって、これまで投資してきたのは22億円で、実際に収益といたら行政としたらいいのか言葉を悩むんですけど、46億円近くが財源として捻出されたんですけど、我々はこの一つの歳入の数値ばかりを追っててもだめなんですよね。これまでやっぱり歳出にかかわった費用とこれから幾らぐらい要るねんという費用計算もしないと、68億円入ったからといって丸々収益が上がっているわけじゃないんだからね。だから、僕がもともと気になっているのはやっぱり吹田操車場跡地でこれからイノベーションパークも事業を推進していく中で、地下水問題もまだ残っていて、これは吹田市が全面的に

やってくれるという話にもなってますけど、そういう部分で本当にこの1億2,000万円の繰越明許だけで吹田操車場跡地の都市計画課にかかわる事業はこれで完了と言っていいのかということを変更してお聞かせいただきたいと思えますし、本当にこの繰越明許1億2,170万円を本来しなければならないのに、1億2,000万円の繰越明許だけでこの事業が進捗するのかという、危惧もするんですよ。トータル的には1億3,700万円吹田操車場跡地にかかわる事業費だったらそのまま繰越明許していてもいいんですよ。今、言ってる項目だけでいきますと1億2,170万円程度ですけど、本来だったら1億三千数百万円繰越明許をやって議会にきっちり予算枠をとってくださいというのが本来の予算どりと違うのかなと思えますけど。こういう今後の事業を含めるのと、その予算どりの考え方について改めてお聞かせいただきたいと思えます。

土地についてはなかなか、もともと購入してインフラ整備をやって鉄建公団を含めていろいろなことの中で皆さん努力されたので、購入価格14億円に対して68億円というね、これは時代の変化もあるし一番立地条件もあってインフラ整備もやったからこれだけの収益があったということは、これは評価させていただきたいと思っております。ただ、バブル時代だったらこれを起点にしながら周辺がどんどんどんどん上がってくるような、そういう誘導型にならないようにだけしてあげないと大変なことになってきますけれどもね。この点についてはこれでよろしいです。

それから、健都イノベーションの執行率ゼロというのは、これも繰越明許を見

ますと全て一般財源なんですよね。商工費として1,152万円、これが全て一般財源で繰越明許をしてるんだけど、もともと補正予算を組んだときに、何かひもつき、ひもつきというのはおかしいけど交付金があったりいろいろな補助金があったり、これがあるって一般財源を含めてトータル予算の繰越明許だったらわかるんだけど、一般財源だけの繰越明許というのがあるのかなという部分が財政運営上ね。これは決算だからこの数字を追っていったるんですけど、専門の副市長がおられるからまた後でトータル的にお聞かせいただきたいと思えます。そういう財源の繰越明許のあり方を含めて。それで、細かいことを言うところの事業というのは決して補助金がつかなくてもいけるような内容の関係もたくさんあるわけですね。だから、例えば土地鑑定と賃料の鑑定委託料なんか、こういったことは補助金なしでもいけるのと違いますか。だから、そういう部分での仕事の進め方という部分でトータル、一斉に費用が発生するような事業と違うと思うんですよね。だから、その辺の仕事の進め方についての考え方もお聞かせいただきたいと思えます。

それから、千里丘西再開発については、期待を申し上げますとぐらいしか今は言えるような状況ではないんですけど、ただ、地権者のうちの過半数というか申し合わせ事項で云々と言ってますけど、やっぱり大口地権者は土地を持っているのだから、そこからは誓約書ももらいながらその人の同意をもらわないことには前に進まないのだから。僕が心配しているのは、3年間で約3,000万円を投資して調査をしてきた、絵に描いた餅にならないようにこれからどうやって

やっていくんだと。今までの手法でと言うのは、調査をすることによって一歩前進しました。しかしながらこれで先ほども披露したように49名おられて3名が行方不明で、46名中4名が面談を拒否されていて、なおかつその中に大口地権者もいますよと言っている中で、これからどういう切り口でいくのか。部長、一回答えてもらえる。切り口を含めてね。

それと、残業の関係は本当に特にこれは要望をしておくけど、やっぱりこれだけの業務を抱えていて働き方の改革、仕事の改革ということが世の中で今言われています。確かに専門職にかかわる部分だから、その方しか仕事ができないというリスクもありますよ。しかし、管理職はそういったことも見定めてマネジメント能力を発揮しながらやっていくのがあなたの方の仕事ですから。今、聞いていたら本来だったら11名体制の中で時間管理をやっていったら残業が月平均例えば40時間とかいうことが即座に答えられるようなことが、やっぱりそういう職員の仲間意識も生まれてくるし健康管理もやってくるし、今健都イノベーションの話をしているんだからね。残業で今は過労死やらどうのこうの言われてるでしょ。

5, 300万円が11人で、確かに期末手当も入ってるけど、あと残業時間を単純平均で割ってみると相当な時間管理になってますよ。確かに吹田操車場跡地はこれで一旦ピリオド、もう一回答弁いただくけど1億2,000万円だけだったらピリオド打てるから、次には連続立体交差のほうにシフトもできるかもわからないけれども、そういったこともやっぱりあなた方が考えていっとかないと、これは全職員に言えることですけどね、管

理職に対して。働き方の改革以前にもうそういうふうな時間管理もやるようにということで、これは要望しておきます。

○上村高義委員長 山口部長。

○山口建設部長 それでは、三好委員からの千里丘西地区のご質問にお答えいたします。

委員もよくご存じだと思いますけれども、現在千里丘西地区準備組合、今大規模地権者がおられまして、その方は昨年度に一応組合員にはなっていたいただきましたということで、あと組合から組合の代表の方が大規模地権者の方に最近では月2回程度、合意形成に向けての交渉はしていただいております。それで、かなり詳しい内容までいっているんですけども、最終のところではなかなか進めない状態なんです。ですから、まだ28年度末までには準備組合のトップの方が大規模地権者の方に交渉を重ねてまいりたいと。市もそれにはもちろん随行をしておりますけれども、その辺に向けて28年度中には何とか結論は出したいなと思っております。切り口は、今はもう組合の代表の方が粘り強くというのが一番の切り口かなと今思っております。よろしく願いいたします。

○上村高義委員長 山田次長。

○山田市民生活部次長 健都イノベーションパークの企業立地推進事業の繰り越しについてご答弁申し上げます。

この事業予算については、委員がおっしゃるように補助金なし、交付金なしでも本来実施すべき事業ということで考えておりましたが、平成28年に入りまして国から地方創生加速化交付金というのが国の補正であるということになりまして、この事業がその交付金に乗るであろうというところで、歳入歳出ともに平

成28年の3月議会で補正予算を計上させていただきました。3月補正ということですので、繰り越しがある程度想定してのものであったわけなんですけれども、歳出につきましては年度内に事業が完了できないということで全額を繰り越しさせていただきました。それから、歳入につきましては、これは財政課ということで所管は別になるんですけれども、結果的にはこの交付金が採択されなかったということで市単費での実施ということになっております。

以上です。

○上村高義委員長 土井次長。

○土井建設部次長 それでは、1億2,000万円の繰り越しの件についてご答弁させていただきます。この件につきましては、当初1億3,500万円の予算を計上させていただきました。今回決算額として1,300万円ほど決算として出させていただいております。残った工事費ですけれども、これは前のクリーンセンターの横の78号線の道路整備工事及び電線共同溝の整備工事費でございます。残額を全額繰り越さなかったのかというお問い合わせなんですけれども、これにつきましては既に発注も行っており、おおむねの金額はつかんでおりましたけれども、この手続をさせていただいたときにはまだ変更の可能性もあることから余裕をもって1億2,000万円を繰り越しをさせていただいたものでございます。その後、4月で工事が終わっておりますので、来年度の決算にはなるんですけれども、この予算内で工事が竣工している状況でございます。区画整理事業につきましては平成27年度で工事が完了しており、これは周辺道路整備として市が単独で行っている事業でございますので、

この分の繰り越しがあったということで、先ほど課長からもありましたけれども、トータルでおおむね22億円の吹操に關しての事業の執行ということで一応工事としては完了しているものと考えております。

以上です。

○上村高義委員長 三好委員。

○三好義治委員 1点だけね。総務の財政方にかかわる部分かもわからないけど、一旦やっぱり予算を組んで完全に未執行だったら一旦シャットダウンしながら当初予算に上げていくとかいうような、長期にわたる事業というのは非常に予算管理というのが乱雑になる可能性が大なんですよね。だから、毎回毎回決算で我々もチェックしていくのがトータル予算の中で今執行率が何パーセントであって次年度何ぼ使うんだと、これがやっぱり議会と行政とのチェック機関を働かせる唯一の問題だと思う。だから、今の健都イノベーションの件、手法としては間違っていないかもわからないけど、ただ、予算立てをやる場合に本来ならばこういったことを次年度に伸ばしていくんだったら当初予算にでもまた上げていくような、これは27年度決算ですからね。だから、そういうふうな考え方というのはいかがなものかなということでは思っているんだけど、副市長どうですかね。

○上村高義委員長 奥村副市長。

○奥村副市長 それでは、今の健都イノベーションの事業の繰り越しのことについてお答えしたいと思います。単独であれば3月の補正予算を計上して、その年度中に執行というのはまず皆無ですので、これは絶対補正予算は当然上がってきません。ただ、補助金絡みでいわゆる

国は27年度で事業執行をしたいと。ただ、手続的には28年度へ繰り越ししますと。その前提条件で本市も合わせて27年度に補正予算をしてください、国と同様に28年度へ繰り越ししてくださいと、こういう国とそれから市町村の歩調を合わせた形で3月に実際には執行できませんけれども補正予算ということは当然出てまいります。

それから、先ほど人員の分で行ったので、余計なことですがけれども答弁させていただきたいと思います。それぞれ人員増を図るということはもちろん人件費が伴ってまいります。過去のピークで職員給のピークを今調べますと、普通会計ベースですが職員給が62億8,700万円ございました。27年度決算では35億3,700万円、実に27億5,000万円ほど人件費は落ちております。そういう意味では行革を進めていく部分では人件費の増はできるだけ抑えたいというのが本音でございます。ただ、事業を執行する場合に今回の大きな事業につきましては当然職員に負荷がかかってきます。庁内的にそれぞれの部課の中では一時期、一定季節だけ要は業務量が増大すると。そういうふうな分については現有人員プラス臨時職員で対応させていただきたいと思っております。ただ、これが長期間にあるいは慢性的に過重な時間外労働になりますと、ご指摘のようにある民間企業では自殺者も出ておりますので、そういうようなことは避けていかなければならないと認識しております。そういう意味で全庁的にいろいろな各課の状況を勘案しながら、人員を効率よくバランスよく配置していくのが人事の宿命ではないかなと思っております。職員の能力向上あるいは能力発揮は当然

でございますが、過重な分については適切な人員配置は当然やっていかなければならないと思っております。

○上村高義委員長 三好委員質問が終わりました。

暫時休憩します。

(午前11時55分 休憩)

(午後12時57分 再開)

○上村高義委員長 それでは、再開します。質問のある方。

森西委員。

○森西正委員 それでは、決算概要に沿って質問をしたいと思っております。

92、93ページですけれども、健康・医療のまちづくり事業、新規ですね、ここで国立循環器病研究センター等との連携を図り、循環器病等の予防や健康づくりに取り組むことによる健康・医療のまちづくりの推進ということでありまして、国立循環器病研究センターを誘致して、現在は今の予防健康づくりで、ウォーキングとか健康マイレージとか実施をされておられますけれども、これを摂津市民全体に健康・医療のまちづくりの推進ということを進めていくということだと思っております。この辺は民生との所管というところでなかなか難しい部分があると思っておりますけれども、お答えのできる範囲もしくは委員長で民生にかかわる部分だということであれば整理をしていただけたらと思っておりますけれども。

この27年度の中でどのように摂津市民全体におそらく平素のライフスタイルを変えていかないといけないというふうに思うんですけれども、その点27年度中この所管の中でどのような会議とか方向性を進めようとしているのかお聞きしたいと思います。

次に、106、107ページですけれ

ども、健都イノベーションパークですけれども、午前中にこの残額のうち翌年度へ繰越明許ということで質問もございました。山田次長からも、医療機器、医薬品、研究開発等の研究所もしくは企業というようなご答弁もありましたけれども、国立健康・栄養研究所というお名前もございましたけれども、私個人としてですけれども、私はやはり本社機能が、次長がおっしゃいましたような研究所も含めて本社機能に来ていただいたらありがたいなというふうには思っているんですけれども、公の機関、国の機関もしくは府の公の機関等が来たときに、市としては既にもう国立健康・栄養研究所という話がありますけれども、全部研究所でもいいのか、例えば公の機関でもいいのか、例えば民間企業という部分は、その点はどういうふうにご考えておられるのか、それをお聞かせいただきたいと思えます。

続いて、118、119ページですけれども、阪急正雀駅前地区整備支援事業ですけれども、地元主体のまちづくり活動への支援ということであります。地元主体のまちづくりとの、そして今市が考えておられる正雀駅前とその点の乖離というのがないのかお聞かせいただきたいと思えます。今のこの地元主体のまちづくりということで、ここで出されているこの費用というのが担当としては十分だというふうにご考えておられるのかお聞かせいただきたいと思えます。現在のこの手法で市が考えておられる正雀駅前のまちというのが達成できるのか。そして、将来どういうふうな町並みといいますか、まちづくりというか、そういうふうにご考えておられるのかお聞かせいただきたいと思えます。

そして、連立の件です。これは要望にしたいと思えますけれども、連立はこれからということですのでけれども、連立が達成した後、今連立に隣接するといえますか、それにかかわる道路路線とかのお話をお聞かせいただきましたけれども、JRのガードが結局これは南北で分断される。千里丘のガードは拡幅されましたけれども、やはり連立で阪急が上がると行き来ができるようになるわけですから、将来はまたそこでJRで南北どういふふうな形で分断をされて行き来をするかというふうなことがあると思えます。その点を十分考えていただいて、その分も合わせ持って都市計画、まちづくりを考えていただきたいと思えます。

説明会も開催をされたということでもありますけれども、住民の皆さんが恐らく心配をされるのは、結局今の線路があって、軌道があって、どの部分に高架になったときに軌道が走るかというのが、それが住民の皆さんには不安というか、どうなるのかというところが知りたいと思えます。北側であるのか、南側であるのか、それによって立ち退き場所がどの位置になるかというところでもありますけれども、それによって結局今現在お住まいの方は生活をどのように今後していくのか。例えば家を建てかえていくのか、家をやりかえるのか、例えばローンを組んでいくのか。そういうふうな部分というのは、恐らくお一人お一人、これがどうなるかによって皆さんがどういうふうにご将来の生活を考えていくのかというところが、やっぱり考えるところだと思いますのでね。その点は丁寧に、これからの話ですけれども丁寧にぜひとも進んでいただきたいと思えますので、よろしくお願ひします。これは要望とします。

千里丘の西地区の市街地再開発事業です。120、121ですけれども。本年度、27年度は676万円の予算で決算が640万9,030円でございますけれども、今まで準備組合を含めてどれだけこの事業に関して費用を費やしてこられたのか。さかのぼって、もし出せる範囲で結構です、お答えをいただきたいと思います。今まで多くの費用がこの事業には費やされたと思います。費やされて今の現状がこのような形であります。前にこれは絶対に進んでいかないとあかんと思いますし、これからも費用をかけて結局前に進まない、検討段階であるとか、前に進まないということがやはり市民の税金をかけてこれは進めてるわけありますから、やっぱりこれは市民に説明がしにくいという部分になると思いますので、その点で担当の考えもお聞かせいただきたいと思います。

以上です。

○上村高義委員長 丹羽課長。

○丹羽保健福祉課長 それでは、保健福祉課にかかわります国立循環器病研究センターの連携事業というお問い合わせにお答えさせていただきます。

平成27年度におきましては、健康教室の講師として医師にご講演いただきましたり、健康まつりにおいてもご講演をいただいたり、あと国循の栄養士さんに来ていただいて八方だしのPR等をしていただいております。また、これは国保年金課になりますけれども、国保データベースの計画の策定に当たって委員で入っていただきご助言等をいただいておりますし、本年度、28年度の事業についてもさまざまなアドバイスをいただきました。本年度につきましては、そのような国循の先生のアドバイスをいただき

まして、糖尿病対策事業として糖尿病境界領域及び糖尿病領域の方を対象としたセミナーを開催してございますけれども、そこに講師として来ていただいております。また、国保も糖尿病性腎症重症化予防栄養指導事業において、国循の医師や栄養士の方からプログラムについてアドバイスをいただいて事業を進めている次第でございます。また、先日行われました市民健康まつりの際におきましてもドクターの方に来ていただきまして、糖尿病に関するご講演並びにあと八方だしについての実技等々のご指導をいただいております。

また、次年度に向けても既に企画等で現在調整中でございますが、循環器予防制圧モデルとして心筋梗塞についてのPR等についても次年度については企画・実施にご協力をいただく予定をしております。また、あと市民コホート研究、これは市民の方の健康状態、データ等を収集していくというすごい大きな事業なんですけれども、これについては長期的に考えていく必要があるんですけれども、一定具体的に進めていくということで協議をさせていただいている次第でございます。

以上でございます。

○上村高義委員長 山田次長。

○山田市民生活部次長 健都イノベーションパークへの誘致のターゲットということでございますが、先ほど医療機器、医薬品、再生医療、健康関連の製品、サービス等の革新的な研究開発を行う企業等を中心ということでご答弁申し上げているんですけれども、全てが研究施設のみで占められるということも考えておりません。研究機能を併設した事務所等なんかも想定されますので、委員がおっし

やるように本社機能と研究所もあれば、それはこちらのターゲットになるのかなと思います。ただし、製造施設というような大規模な生産工場とかは想定しておりませんで、試作品の製作程度のものかなということと、それから流通拠点ということもこの場所では想定しておりません。それから、公の機関であるとか民間企業ということではありますが、これについては公であれ民間であれ、どちらでも国循と連携した健康・医療関連の研究を行うということであればイノベーションパークのターゲットとしてふさわしいものと考えております。

○上村高義委員長 西川課長。

○西川都市計画課長 2点のご質問にお答えさせていただきます。

1点目、正雀駅前地区整備の支援事業につきましてお答えさせていただきます。正雀の駅前につきましては、正雀のワークショップを開催させていただいておりまして、そこに使用しておりますのは、そのときそのワークショップに必要な消耗品費を計上しております。正雀と千里丘の違いといいますと、先ほどから申し上げておりますように、過去から正雀の駅前の再開発についていろいろしてまいったところなのですが、やはり地元の機運というのが一番大きな違いかなと思っております。それに、この西口につきましては準備組合を立ち上げてこれから再開発をしていこうという機運が高まっておりますが、正雀については一時期高まったものはございますが、少しそういうので低下している状況がございます。また、駅前の成り立ちにつきましては、道は細いながらしっかり南北の道ができていたのが正雀でございまして、千里丘の駅前西口につきましては細い道、

車が通れないような道が乱立しているところと少し違うのかなと思います。理想的なことをいいますと、やはり駅前のロータリーをつくるなり駅前開発ができればと思っておりますが、やはり地元の機運を高める必要が少しあるのかなと思っております。

それから、千里丘西口の補助、支援につきましてということでお答えさせていただきませんが、過去からの市の補助金につきましては、ここ3年は1,500万円、900万円、600万円余りの支出をしております。過去にさかのぼりますと平成元年から14年まで補助金としまして2,150万円を支出してございます。その前をさかのぼりますとさらに調査費としまして62年に570万円、63年には450万円を支出してございまして、西口の再開発につきましてはかなりの支出をしております。現在、一定大口地権者が準備組合に加入されたということで、何とか合意にもっていこうということでさらに400万円の補助金を出していただきまして、準備組合を中心に大口地権者の同意を得ているところでして、我々としましてはぜひとも再開発を実現させたいという思いを持っております。

以上です。

○上村高義委員長 森西委員。

○森西正委員 それでは、健康・医療のまちづくりについては要望としますけれども、健康まつりとかさまざまな事業で健康・医療ということで実施をされてますけれども、実際にそこに来られる方というのは特定の方ですから、今進めようとされているのは恐らく摂津市民の方全体にということでありましょから、そういうふうな部分でぜひとも摂津市民の

平素の生活で、ライフスタイルとか食生活とか、そういうふうなことが改善されるような形をこの健都から発信をしていただいて、それでさらに摂津で実行したことが全国に発信されるようにぜひとも頑張っていたいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

健都イノベーションパークですけれども、今ご答弁をいただきました。私はできたら、国の公機関になりますと税という意味からしますと歳入というのがないという形になると思いますので、その点は摂津市に歳入として入るような形をぜひとも考えていただきたいというふうに思いますし、さらに健都のイノベーションパーク以外にも周辺にも例えば公募をされて、公募からもれた企業さんとか事業所さんがその周辺に立地を求めているところもあろうかと思えます。また、そういうふうな部分も含めて、山田次長のところだけではなく、やっぱりそれはまちづくり全体にもなってくるので、そういうふうな観点でぜひとも考えていただきたいと思えますので、これも要望とします。

正雀ですけれども、要するに地元の機運が上がらないということでもありますけれども、そうしましたら今のこれでいいのかということですね。機運は上がらないけれども地元の方はこれでもういいというお声というのはなかなか耳にはしないので、やはりこれはどうにか変えていきたいとか、変えたいとかね、このままではいけないという方が多くおられると思うんですけれども、それはやっぱり行政が何らか入っていかねばならないというふうに思うんです。やっぱり、正雀の駅前を見ますとシャッターが閉まっていたり、もしくはシャッターが

もう壊れていてどうも住んでおられない方や、もしくはこれからになってきますと所有者が不明であるとかいうような不動産というのが出てきたり、高齢化が進んで先になるとなかなか開発なり、もしくはこうしようといってもそれに同意をされる方というのがなかなかおられなかったり、もしくは相続の権利者が複数人になってたり、そういうふうな問題や課題が恐らく出てこようかと思えますので、その点も考えていただいて正雀の駅前を何とか前にといいですかね。地元の機運がないということでもありますけれども、行政として何らか考えていただきますように、よろしく願いしたいと思います。

千里丘の西の件ですけれども、今までお聞きをしますと、ここには多くの費用が費やされていて、現状としては、それまでにはいろいろな形でこうしたい、ああしたいという担当の方からもいろいろと説明をいただいたりとか、図案をいただいたりしてきました。けれども、現状としてはこういうふうな状況であります。大口地権者の方がおられますけれども、やはりどこかの段階でその辺は市として、課題は課題としてあるんでしょうけれども、例えばその課題を排除していくとか、その課題なしで別の考えをという形もやっぱりそれは考えていかなければならないというふうには思うんです。準備組合の方ももう高齢になってきてます。これが時間がたってますます高齢化になりますと、恐らく事業も進まなかったりとかということもあろうかと思えますのでね。やはり、ここは今一定の考えるべきときだとは思えますので、大口地権者さんとの課題はあります。それがやっぱり将来何とか同じく前に進んで

いこうということであることが難しいのであれば、やはりこの辺で一定の線を引かなければならないのかなとは思いますが、これは要望としたいと思しますので、ぜひとも前に向きますようお願いをして質問を終わりたいと思います。

○上村高義委員長 森西委員の質問が終わりました。

以上で、質疑を終わります。

暫時休憩します。

(午後1時21分 休憩)

(午後1時22分 再開)

○上村高義委員長 再開します。

討論に入ります。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○上村高義委員長 討論なしと認め、採決します。

認定第1号所管分について認定することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手する者あり)

○上村高義委員長 賛成多数。よって本件は認定すべきものと決定しました。

これで本委員会を閉会します。

(午後1時23分 閉会)

委員会条例第29条第1項の規定により署名する。

駅前等再開発特別委員長

上 村 高 義

駅前等再開発特別委員

三 好 義 治